



国際ロータリー第2800地区

鶴岡西ロータリークラブ

地区方針

**「4つのテスト」を実践し ロータリーの価値をたかめよう！**

第2559回例会 2021年4月5日(月) 会場: グランドエルサン

◆会長 佐藤一嘉 ◆幹事 辻博智

## 会長挨拶 佐藤 一嘉



4月1日の荘内日報紙に当クラブの鈴木孝純さんの論説が掲載されていました。

『コロナ禍で、人間は何を試されているのか』題名で、冒頭の下りが気に入りました。ご紹介します。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」とよく言われます。1年の4半分を過ぎた今、1月は新年を迎えたものの、その慌ただしさに時間が足りず、2月はそもそもの日数の少なさに溜め息をもらし、3月は年度の始末に追われ気が付くと期は過ぎていたと。時の流れの速さをつくづく感じます。・・・という内容でした。もちろん本題はそこから続くのですが。

今日は新年度のはじめです。4月は4月で忙しく過ぎていくのだと思います。本当に時の速さを感じます。

### 無用の力を省き需用に応ず

むようのちからをはぶきじゅようにおうず

この格言は、金銭、物質、労力などの正しい使い方を示したものです。

私たちは、日常生活において、多くの無駄なことを行なっています。何が有用であり、何が無駄であるかについては、人によって違いがあります。たとえば、私たちはすぐには必要のないものでも衝動的に買ったりやらなければならないことがあっても娯楽に時間を費やしたりして後悔することがあります。

また、自分が努力して得た金銭や物品を自分と家族のためにのみ使用して、それを社会に還元することを忘れがちです。国家の事業や国民の教育、文化のための事業、とりわけ道徳性の向上に役立つ事業、あるいは老人や障害者への奉仕活動など、社会に必要とされている事柄は多いのですから、すすんでこれらの事業や活動を援助していくことが望まれます。

また、国家や地方公共団体などの組織の改善や効率化が強く叫ばれているのは、各所に無駄が多いことを示しています。国際的に見ても、たとえば軍備拡張競争には巨額の金銭や物資が使われていますが、他の一方では、飢餓に瀕したり、教育も受けられない人が何億人もいます。したがって、可能なかぎり金銭、物質および労力を、より多くの人々の基本的人権を守るために有効に使用していくことが求められています。

今日、自分さえよければよいという考え方が社会一般に蔓延しています。これでは結局、家庭を崩壊に導き、社会の秩序を乱すこととなります。そこで、自分も相手も社会も、ともによくしようとする道徳的な心づかいで、自己の労力を生かしていくことが大切です。このことが理解されれば、無用な力を費やすことは少なくなり、公共の福祉や国民全体の利益になること、あるいは道徳的精神に適合する事業に率先して参加し、援助できるようになります。

どこまでも人を愛し、育てることを第一とします。そして、つねに全体の秩序や調和、発展を考えて、自己の時間や精神的、肉体的労力を、他の人々や社会のために積極的に活用するのです。この人間尊重の考え方にもとづく努力が、安心、平和、幸福を実現していくのです。

**幹事報告 辻 博智君**

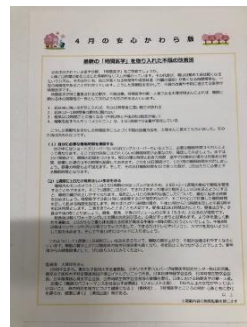


- ・国際ロータリー日本事務局より4月のRIレポートの案内
- ・第2590地区 ガバナー事務所  
第9回 全国インターアクト研究会「中止」のお知らせ
- ・地区事務所  
地区研修・協議会「延期」のお知らせ
- 2021-2022年度審議事項決議のお願い

1ドル=110円

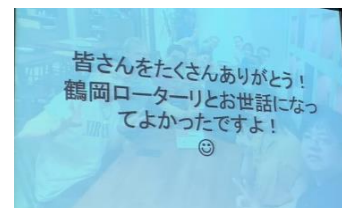
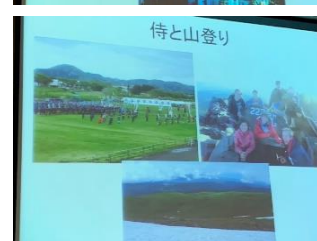
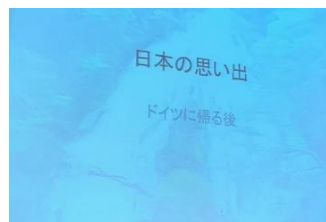
**会員スピーチ**

阿部 悦子君



**ゲスト**

アレックス君



**ニコニコBOX**

- ・笹原 儀則 君      アレックス君が帰国することになり挨拶に来てくれました。ドイツでの活躍を期待します。

本日の出席	会員数	28名	出席数	22名	出席数	81.48%
前々回の出席	出席率	57.14%	修正出席者数	20名	修正出席者数	71.43%